キャリア教育における支援と実践の報告

北原　泰邦
執筆協力　赤羽　美帆
（キャリア支援室　支援員）

1　短大の日本語表現での就職対策について
言語コミュニケーション学科としての取り組み
自己分析・作文・履歴書

2　キャリア支援室の指導報告（赤羽執筆部分）
年間計画と報告・考察 / 今年度の変更点について
アンケートなどを活用した考察
～コロナ禍での就職活動の現状と課題

3　就職作文・履歴書の指導の報告
「コロナ禍での就活について」アンケートの結果分析

4　履歴書・論作文の添削指導の実践の報告
２年生への添削指導の取り組み

5　１年生におけるキャリア教育の取り組み
１年生企業ガイダンス～志望理由書の書き方指導～ＯＧ来校イベント
今後の取り組み・課題

１　日本語表現での就職対策について

２０２０（令和２）年はこれまで経験したことのない激動の１年であった。大学・短大の就職活動もコロナ禍の中、非常に困難な状況での活動を強いられることになった。全国的にも、今年度、大学短大など就職活動を進める学生は、「採用活動の混乱を避け、感染拡大前にインターンシップ（就業体験）に参加して企業と接点を持ち、早期に内定を確保した学生と、春から本格的に動き始めたが、感染拡大で就活が思うように進まなかった学生に二極化」（『読売新聞』令和２年１１月１８日朝刊）という傾向となっている。

文部科学・厚生労働省の調査によると、来春卒業予定で就職を希望する全国の大学生の内定率は、令和２年１０月１日時点で６９・８％となっており、前年度同期比－７・０ポイントであったという（『信濃毎日新聞』令和２年１１月１８日朝刊）。このうち、短期大学は－１３・５ポイント、専修学校は－１４・９ポイントとなっており、過去最大の落ち込みであるというデータが出ている。長野県内では、長野労働局の調査によれば、県内の大学・短大・専門学校の内定率は、１０月末現在で６１・６％と前年同期から－４・５ポイントとなり、１１年ぶりの低下となった（『信濃毎日新聞』令和２年１２月２日朝刊）。

さらに、県内の学制別の内定率をみると、大学は７６・１％（－３・７ポイント）、専修学校は４６・２％（－４・７ポイント）、短期大学は５９・８％（－７・６ポイント）という集計結果が示されており、県内短大生の内定率の低下幅が最も大きい結果となっている。この状況について長野労働局・職業安定課は、「事務職を中心に販売、接客サービスなど新型コロナで採用が見送られやすい業種の志望者が多く、比較的内定を得にくい状況にある」と分析している（『信濃毎日新聞』令和２年１２月２日朝刊）。本学・信州豊南短期大学言語コミュニケーション学科の学生も、事務職や販売・接客業を志望する者が多く、上記のデータや分析結果とほぼ同じような状況であると考えられる。むろん、本学でも、キャリア支援室を中心に、学生に対しての情報提供や面接実施を複数回実

施するなど、さまざまな支援を行っているものの例年以上の苦戦を強いられている状況である。そうした中、本学の言語コミュニケーション学科では、キャリア支援室と連携しながら、必修科目の日本語表現の演習授業において、文書作成を中心としたキャリア指導教育を実施してきており、コロナ休校期間中にも課題作文やメール等での履歴書・作文・エントリーシートの添削指導などの取り組みを行ってきた。

そこで、本稿では、これまでの本学のキャリア支援の取り組みを報告しつつ、今年度大幅な変更を迫られた就職活動の報告をしながら、コロナ禍におけるキャリア支援の方法と今後の課題を考えてみたいと思う。そこでまず、言語コミュニケーション学科での必修科目である日本語表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲにおける就職対応の文書作成の取り組みについて概略し、次いで、キャリア支援室での１年間の活動報告と今年度の取り組みについて考察をしながら今後の課題点を探りたいと考える。その上で、コロナ禍における就職活動の教育実践例を挙げつつ、本学科のキャリア教育の取り組みを報告してみたい。

日本語表現Ⅰ・Ⅱでは、論理的な文章作成能力を身につけることを目標とし、そこで得た文章表現法を発展・応用させ、自分の考えや個性を的確に相手に伝える力を養成している。また､社会で必要とされる待遇･接遇表現を学ぶことで、社会人として身につけるべき基本的なコミュニケーション力を修養することを目指している。そのため、短大１年次には、日本語能力検定・コミュニケーション検定などの資格取得を目指し、そこで得られた知識やスキルを就職活動に活かすことを目標としている。また、日本語能力のスキルアップのため、年間５回のレベル別試験（レベルチェックテスト）をおよそ２０年前から実施しており、本学科の根幹をなす授業となっている。授業では、履歴書やエントリーシート、自己分析ノート、就職論作文などのキャリア文書作成の実践的演習も行っており、キャリア支援室開催の就職ガイダンス内容と連動する形で授業内で文書作成の実践的指導を行っている。この点に関しては、キャリア支援室の年間報告を参照していただきたい。

さらに２年次の日本語表現Ⅲでは、就職作文の対策と方法として、「自己ＰＲ文」「志望動機書」「社会人としての心構え」といった就職論作文の対策と方法を中心に据えている。また、面接・討論対策として、グループディスカッションや課題提案型小論文「地域活性化の方法」を取り入れながら、社会で必要とされる表現力・思考力・判断力を会得することを目指している。こうした日本語表現での取り組みが土台となり、キャリア支援室の活動と連携しながら、学生個々の就職活動のサポートをしているのが本学科のキャリア教育の特徴だといえよう。

以下、その支援の具体的な取り組みと教育の実践的報告を示していきたいと思う。

２　キャリア支援室の指導報告

キャリア支援室では１年次から、自己分析・適性・個別面談を実施し、「働くとは」「仕事とは」といった考え方から、社会人としての基礎力やマナーを身につけられるよう就職に関する全般的な就職ガイダンス年間計画し、学生に合った指導、助言に勤めている。以下に年間スケジュールと変更点を示してみたい。

学年	時期	年間計画	実施内容	今年度の変更点等
一年生	4月～	・進路ガイダンス	・プレスメントガイド配布 ・就職相談について ・年間予定・就職対策のプロセスと心がけ等 ・信州産学官連携インターンシップ事業への参加について ※自己開発プログラムの作成・提出	・高遠キャンプ中止 ・信州産学官連携インターンシップ 申込者3名。 うち実施者1名。 コロナウィルス感染拡大のため北信地域信地域学生参加自粛。 **経年インターンシップ実施後アンケート（図-①）**

一年生	5月～8月	・コミュニケーションゼミ担当による面談 ・進路ガイダンス	・「インターンシップとは」DVD視聴 インターンシップに必要なビジネスマナーと心構えを身につけ参加意欲を高める。 ・DVDによる就職活動対策 「働くって何？」 就職活動を何から始めて良いのかわからない、就職活動をする気力が湧かない等の就活に対する不安の解消、モチベーションアップを図る ・夏季休暇中の諸注意 アルバイト・ボランティア活動・就活セミナー等について ※進路アンケート調査（学生・保護者）の作成・提出。 ・自己像の分析を行い自分を客観的にとらえる	休校中の為中止 進路調査結果報告 **2021年卒、2022年卒生比較** **（図-②）**
	9月～12月	課題探求ゼミによる個別面談の実施 ・進路ガイダンス **・就職対策セミナー** **第１弾** 就職活動に取り組む心構え **・就職対策セミナー** **第２弾** ・地域の企業を知る企業研究ワークショップ	・進路・学生生活・健康について面談の実施 ・キャリアインサイトの実施（希望者） DVDによる就職活動対策 「就活の身だしなみ」 「自分のことを伝えよう」 「抱えている不安や悩みを減らし、就活が楽しいと思える自分になる」 ≪自己分析を深堀し、就活が楽しいと思える自分になる≫ 《生活習慣を見直し、社会人基礎力を磨く》 講師：ジョブカフェ信州 就業支援地域アドバイザー （百瀬彰彦氏） ※自己分析ノートの配布 「地域企業への就職メリットを考える」 講師：若年者地域連携推進センター（北出信一氏） 参加企業 ・アルプス中央信用金庫 ・WasiON 共立継器 ・社会福祉法人サン・ビジョン ・合資会社親湯温泉 ・辰野町役場	**セミナーアンケート結果** **（図-③）** **セミナーアンケート結果** **（図-④）**

		・就職対策セミナー **第３弾** ・具体的な就活情報の収集の仕方 **・就職対策セミナー** **第４弾** ・異なる業種の特性を学ぶ	「就活成功の秘訣」 講師：㈱マイナビ 企画広報統括本部 キャリアサポート課 （小松明日香氏） ・22年卒の就活スケジュールと現状 ・いまからやるべきこと ・Webサイトの登録・活用方法 ・DVDによる就職活動対策 「履歴書・エントリーシートの書き方」 ・「卒業生から学ぶ就職活動」ワークショップ 《社会人になっての感想、就職活動の体験談、後輩へのメッセージ》 パネラー（卒業生OG） ・公務員 ・金融業 ・小売業 ・小売業（営業職）	
	1月～	・進路ガイダンス ・履歴書用写真の撮影 **・就職対策セミナー** **第5弾** ・具体的な就職活動 冬季インターンシップ	※進路登録カードの提出 ・履歴書の書き方 ・履歴書用写真撮影 小池写真館出張撮影 「就職活動の進め方」 講師：フロムワン （北出信一氏） 若年者地域連携事業推進センター	申込者19名
二年生	4月～8月	・進路ガイダンス ・キャリア支援室による個人面接 ・進路ガイダンス	・進路指導ガイダンス指導、公務員試験、各種証明書発行、就活に係る公欠手続き、ガイドブックの活用について ・DVDによる就職活動対策 「対策！グループ面接」「グループディスカッションは怖くない！」 ※進路カードの提出 就職活動の疑問・不安を解消するための機会とする ・就活進捗状況確認 ・求人情報の提供 ・情報収集の仕方 ・Web面接の指導 ・就職活動における対応について ・夏季休暇中の各種日程について ・進路活動調査票の提出について	・休校により１名ずつ呼び出し感染対策をして対応 ・電話・メールによる相談・履歴書添削指導 ・キャリア支援室にカメラ付きパソコンの設置 ・台風の為中止 （資料後日配布）

	9月～	・ワーキングセミナー ・ハローワーク出張相談	・「新社会人としての心構え・仕事のマナー・知っておきたい働くルール」 講師：南信労政事務所 労働相談員　　（羽生峰雄氏） ・ハローワーク伊那就職支援ナビゲーターによる学内出張相談実施 ・進路未決定の学生を対象とした面談 学生個々の課題の解決を図ると共に、各種相談に応じる	

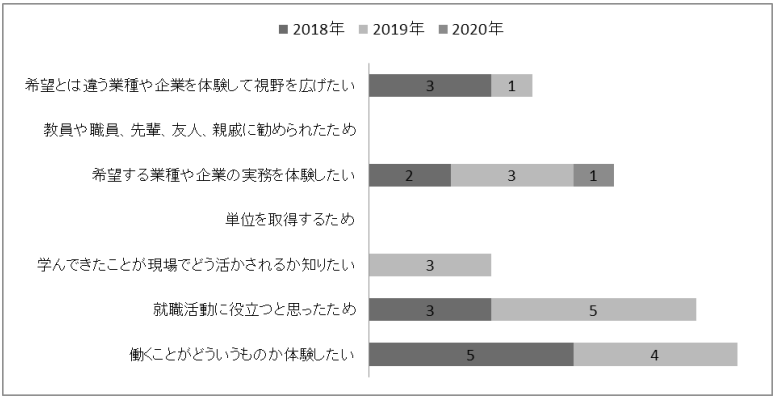
次に各項目を説明したい。

図 - ①　経年信州産学官連携インターンシップ実施者アンケート（2018 年～2020 年）

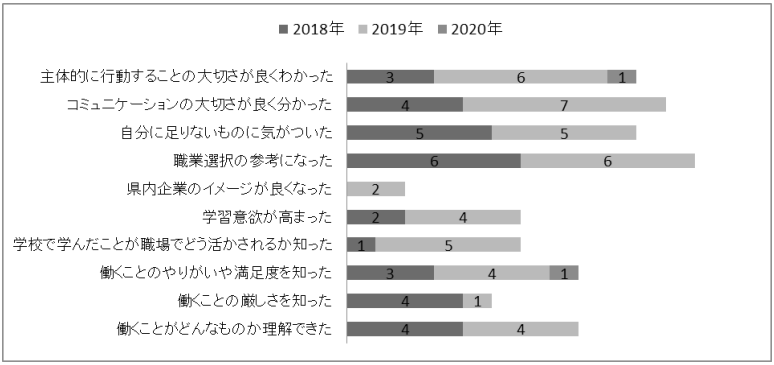
次のアンケートは、信州産学官連携インターンシップ参加者を対象として、インターンシップ実施後に調査したものである。信州産学官連携インターンシップは、県内大学･短期大学、経済 4 団体及び長野県が連携し、約 140 社の企業･事業所・地方自治体が参加するインターンシップ事業である。この事業は主に夏季休暇期間に実施され、実施期間は 2 日以上となる。キャリア支援室では、学生が企業等において実社会の就業体験をすることにより「勤労観」「職業観」を醸成し、進路選択の一助となることなどを目的としインターンシップへの参加を呼びかけている。

2018 年の参加は 7 名、2019 年は 8 名の参加。2020 年は 1 名の参加にとどまった。コロナ禍によりインターンシップへ応募すること自体への躊躇があったのではないかと思われる。また、コロナ禍により参加企業も例年に比べて減少した。

Q1. 参加動機はどのようなものか。（複数回答）



Q2. インターンシップに参加して得られたことは何か。（複数回答）



【参加者の感想】

・直接職場や職業を体感できる機会があることによって、実際に働くとはどういうことなのか、働くことの意味を考えることができた。（2018）

・実施期間は最大でも2日間で充分である。上伊那地区の事務職の実習先を増やしてほしい。（2018）

・多少実務に携わるかと想像していたが、建築という職業も相俟って2日間1日中見学であったことに少し驚いた。（2018）

・インターンシップの体験を実施する前はとても不安だったが、実際にやってみると自分の目で働くとはどういうことなのかみることができ、これから自分は就職活動をするという実感が湧いた。（2019）

・3日間それぞれ1日ずつ別々の事業所、施設での体験でそれぞれの特徴や違い、やりがいなど様々知ることができたが、1日では見学が多く、利用者の方との関わりも少なく、自分で施設の魅力など感じることがあまりできなかったので、1つの施設に1週間体験に行ったり最低でも1つの施設3日間ずつ行ったりできれば良かった。（2019）

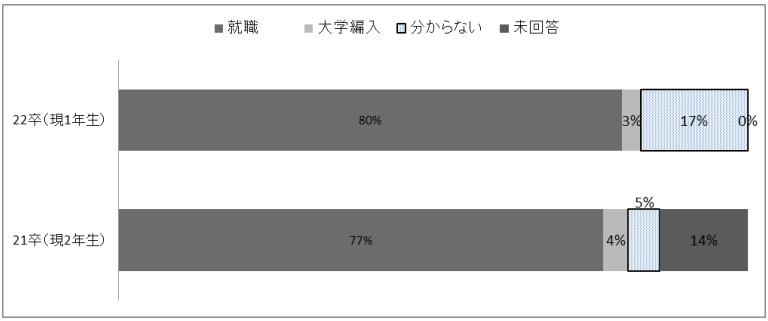
【考察】

この項目では、参加動機は「業界・業種理解」や「仕事の内容の理解」を目的に参加している学生が多いことが伺えるが、「働くことがどういうものか経験したい」としている学生も多く、勤労観、職業観の未熟さが伺える。また、参加した全ての学生には、インターンシップを通して、就職活動への意欲を高める効果が計測された。「働く」ことを実感として理解して、自らの適正や能力について考え、進路選択に役立てて、その後の学習意欲の向上や就職活動、就職後のミスマッチ解消に繋がることも期待される。今後はより多くの学生が積極的に参加していくことが望まれる。

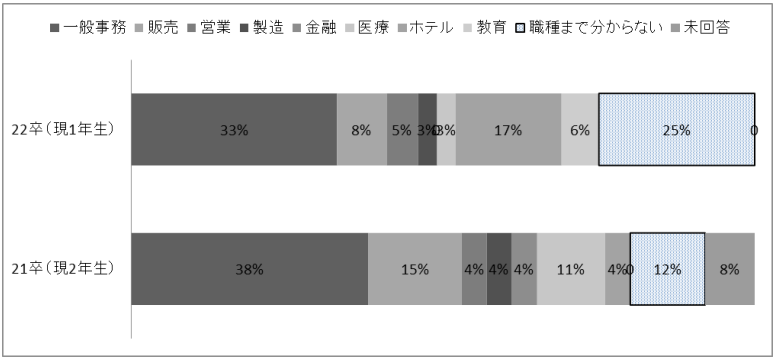
図 - ②　就職意向調査結果報告 2021 年卒・2022 年卒

この調査は、2021 年卒（現 2 年生）・2022 年卒（現 1 年生）の言語コミュニケーション学科の学生を対象に、1 年次の 9 月に調査したものである。コロナ禍により大きな影響を受けたとされるのが「学生の就職活動」であり、そこで就職活動を控える 1 年生の就職意向決定にどの程度、影響があったのかを調査した。

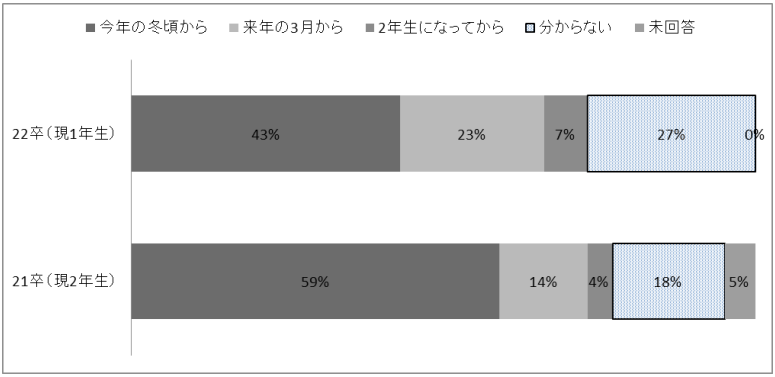
Q1 希望する進路



Q2 希望する職種



Q3 就職活動の開始予定



【考察】

この項目では、「希望する卒業後の進路」の回答について、「分からない」と答えた学生が 21 卒生は 5％であるのに対し、22 卒生は 17％となっている（+12 ポイント）。また、「希望する職種」では「職種まで分からない」と答えた学生が 21 卒生 12％であるのに対し、22 卒生は 25％である（+13 ポイント）。「就職活動の開始予定」の質問に対しては、「分からない」と回答した学生が 21 卒生は 18％であるのに対し、22 卒生は 27％である（+9 ポイント）。

22 卒生（現 1 年生）は大学入学時からコロナ禍にいた。大学への登校自粛により、学生への情報共有が難しくなり、また、インターンシップの開催減少や開催形態の変化の影響等なども影響した。これが学生の就職活動への意識低下につながったのではないかと考える。

図 - ③　就職対策セミナー第 1 弾　就職活動に取り組む心構えセミナー
アンケート結果

このアンケートは、就職対策セミナー受講者を対象に令和 2 年 11 月 11 日に実施したものである。セミナーを通じて抱えている不安や悩みを減らし、就職活動に自律的かつ前向きに取り組めることを目的としている。

【アンケート結果】

・もっと自分と向き合うべきだと感じた。自分の魅力とどんな企業で働きたいのかを見つける。　4名
・これからの 6 か月で自分がどう変われるか楽しみになった。今の環境に幸せを感じながら生活していきたい。　2名
・１０年後までの自分の人生設計を作れるような時間が必要だと感じた。面接では目に見えるものではなく考えや、行動できることが大事だ。　2名

・どんな職業が自分に向いているか、どう見つけるかがわからない。行動に自信が持てないから就職が不安になってしまう。いろいろチャレンジしてみることが大切だと思った。　3名
・自己分析をしっかり行い自己ＰＲに生かせるようにしたい。　2名
・社会人基礎力としての協調性、行動力を身に付けたい。コミュニケーション力や傾聴力、柔軟性をしっかりと身に付け自信を持って社会に出たい。　1名
・就活を焦れば焦るほど抵抗が大きくなる一方だったが、１歩を踏み出す気持になることができた。　1名
・就職活動を成功させるためには準備が必要だと感じた。自分の事をよく知り、よさを見つけプラス思考を持つように心がけ、今の生活を楽しみながら成長していきたい。　3名
・自分で考える事の大切さが判った。自分の魅力探しを行い、生活習慣を整えたい。　6名
・人生時計で見ると始まったばかりなので失敗を恐れずにチャレンジすることを忘れないで頑張ろうと思う。　3名
・まだ就職活動は先との感じでいたが、就活に危機感をもって自己分析・企業研究をやろうと思う。テレビのニュースや新聞を読む習慣を身につけたい。　6名
・自分には人よりも優秀な部分はなく自己分析に悩んでいたが、過去を思い起こし志望動機に繋がる自分を見つめ直してみようと思う。ポジティブに考える大切さを学んだ。　1名
・不安や行動への迷いがあったが、ものの観方や考え方により楽しくもなると感じ、少し軽くなった。今日教わったことを自分なりに実践していきたい。自身の言動にプラス思考の一貫性を持たせ、この環境を積極的に楽しみ活用していきたい。　4名
・この就活セミナーを通して多くの事が具体的になった。コロナ禍で就活が予

想以上に厳しくなったと感じた。生活リズムを見直すなど就職を意識していきたい。　4名

・履歴書に書かれていない人間性や人柄を見られると聞き自分を見つめ直そうと思う。　1名

・自己ＰＲと志望動機はいつでも同じではない。そのためにいくつもの自分の魅力を探しておく。　1名

・下手でも自分の言葉で話せる人の方が評価される。自分の意識行動に一貫性を持たす。人は皆平等に成長する能力があり、偏差値や資格の問題ではない。「高ストレス」「人間力低下の懸念」のような社会で生きていかなければならない。自分と自分の将来は変えることができる。日常生活がとても大切。人生時計は朝の段階でありどんな人生でも歩んでいけことを知った。　1名

・６か月後の自分を大きく変えるために今から準備しなくてはならない。話が下手でも自分の言葉で話せるかどうかを学んだ。　1名

・面接は自然体でいくべき。そのために自己分析をしっかりして、社会人基礎力も身に付け希望する就職先につきたい。　1名

【考察】

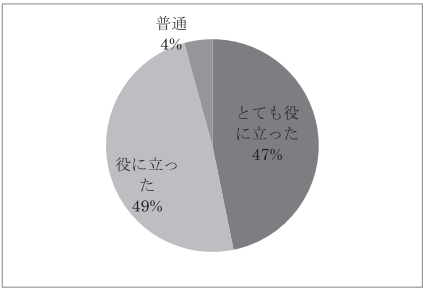
ここでは、「自分を見つめ直し良さを見つけていきたい」「就職活動が楽しみになった」「今の生活を楽しみながら成長していきたい」等、非常に前向きな回答が多数あり、また社会人基礎力を身につけていきたい等の複数回答があった。様変わりする就職活動と労働市場の現状を知り、就職活動への意識付けとなったことがうかがえる。

図-④　就職対策セミナー第2弾　地域の企業を知る企業研究ワークショップ実施アンケート結果

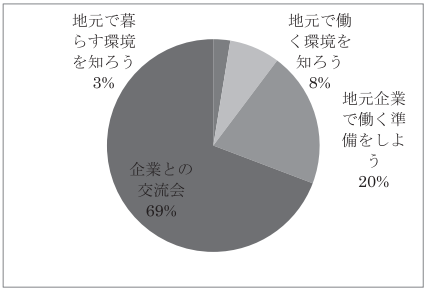
このアンケートは、令和2年度厚生労働省・若年者地域連携事業UIJターン就

職セミナー受講者を対象に、令和2年11月18日に実施したものである。金融、製造、福祉、観光、行政と異業種の5企業の人事担当者を招き地域企業を知る企業研究ワークショップを実施した。

Q１　今回のセミナーについて



Q２　印象に残ったカリキュラムは何か



◆参加学生アンケート結果

・このセミナーに参加して、製造業に就職してみたいと思った。まだ、少し迷っているので資料などを集めてから判断していきたい。

・就職にむけて自分で情報を集め、行動を始めなければいけない。企業の方々と話をして、面接にむけてどんなことを心がければよいかを知れた。冬のインターンシップに参加して、色々な企業の現場の雰囲気を知りたい。

・今できることや準備をなるべく早くし、企業分析をしっかりしようと思った。（2）

・どの企業もわかりやすく教えてくれてとてもよかった。今から就職活動が始まっていると聞いたので、自分から就職に対して力を入れて、またキャリア支援室もたくさん使っていきたい。

・早めに就職について準備を始めることが大事だと改めて感じた。

・地元企業の方の話を詳しく聞くことができて良かった。会場が２つに分かれてその中で1つの企業だけの話をお聞きする形だったので全ての企業の話を聞きたかった。自分の希望する業種の方の話を聞いて、漠然とした企業イメージから少し明確なイメージに変わることができた。

・内容もとても役に立つものだった。企業の方の話し方や言葉づかいがしっかりしていて学ぶものがたくさんあった。
・今まで考えていなかった企業に興味を持つことができた。インターンシップに積極的に参加し、もう少し視野を広げて様々な企業を知ることが必要であると感じた。
・色々な企業の方から話が聞けて良い体験ができた。公務員に興味がある私にとっては、辰野町役場の話がとても参考になった。特に生活環境課という仕事が誰もやらないような事故死した犬・猫の死体を片付けたり、不法投棄などを片付けたりと普段生活していく中で気付かないことをやっていると感じた。
・企業の方と実際に対面して話を聞けて、就職について考えることができとても良い経験になった。（5）
・数年後について考えることができた。早めに準備するべきと念を押されたので、しっかり取り組んでいきたい。
・実際に卒業生の話を聞いてとても参考になった。私が一番就きたい旅館に話しを聞いて準備を進めようと思った。
・仕事内容や会社の特徴、地域にどのように貢献しているかなどを知ることができて参考になった。
・実際に企業の方の話を聞くことができ、調べるだけでは分からないことを知ることができて良かった。（2）
・どんな仕事に就こうかずっと悩んでいたが、そこで働く人の話や先輩の話を聞くことができ、自分はどんな仕事が好きなのか分かった。
・説明をお聞きすることで企業に対するぼんやりとしたイメージが少しはっきりした。様々な職種に目を向けてどんな企業があるのか知っていくことの大切さを感じることができた。（2）
・就職活動に向けて今動きださなくてはならないことを改めて実感した。また、企業との交流会では普段話を聞くことができないような実際に働いてい

る人ならではの話をきくことができ、とてもよい経験になった。

・まだまだ就活生という自覚が足りてないという事を実感した。

・就職について「もっとしっかり行動しなければ」と改めて思った。

・企業との交流がとても大切なのだということが分かった。（2）

・実際にどんな企業がどんな人材を求めているのかメリット、デメリットをそれぞれ知ることができたのはとても大きな一歩になった。

・企業の話を働いている人から聞くことで、内部のことを知ることができ、意外なこともきけたのでよかった。

・このご時世でも企業の方々が来てくださり貴重な話を聞け、これからは今回のことを参考にし、万全な準備をしていきたい。

・就職活動が始まったばかりで中々実感が沸いていなかったが、今回のセミナーで身が引き締まった。本格的に自分が何をしたいのか考えなければいけないと感じた。

・実際に企業の方のお話しを聞くことで、その企業がどのような環境でどのような仕事をしているのか知れた。全ての企業の説明を聞くつもりでいたが、時間がなく聞けなかったのが残念だった。

・今まで就職についてあまり自覚がなかったが、今回のセミナーで少しずつ就職について具体的になった。

◆就職活動や働くことに関して悩みや不安

・県外に就職したいので自分で情報を集めることが主になるので、わからない事が多くて不安。

・実家で働きたい。インターネットを使えば容易に情報が手に入ることは分かっているが、「それで本当にうまくいくのか」が不安。県外の就活のコツは何かあれば知りたい。（3）

・就職する前に一度でもアルバイトはした方がいいか？（社会勉強のためにも）

・インターンシップに行きたいがどうやって行けばいいのか分からない

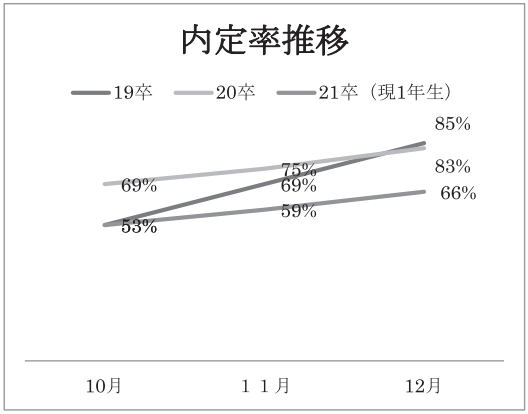
・このような状況下での活動に対し消極的になってしまう。（2）

【考察】

ここでは、「印象に残ったカリキュラム」の回答が、「企業との交流会」が69％におよび、企業の人事担当者の話を直接聞くことにより、就職活動が始まったばかりで中々実感が湧いてこないとういう学生も、「セミナーを通じて身が引き締まった」「早めに行動しなければならない」「就職活動に積極的に動きたい」等の感想につながった。また、「コロナ禍で活動に対して消極的になってしまう」「県外の就活に不安がある」等の回答があり、コロナ禍の就職活動において採用の減少が相次ぎ、環境の変化に不安を感じている学生も多いのではないかと思われる。

すでに企業は22卒の採用活動をスタートさせているが、年末にかけてコロナ感染がさらに拡大し今後も収束が見えないことから、多くの企業は、いまだに明確な採用計画を立てられず、コロナの感染状況を考慮した分散型の通年採用が増えるのではないかと思われる。21年卒の採用では、多くの企業がWEB面接を導入し、今後もオンラインでのイベントや情報収集が基本となっていくだろう。オンライン就活になったことで時間の制約や距離の制約が取り払われ、主体的に動いて獲得できる情報が格段に増えているが、主体的に情報収集や行動がおこせる学生と、そうでない学生の差が開いてくるのではないかと考えられる。学生は取り巻く環境の変化を受け入れ、適応できる能力が必要不可欠となる。

以下、19年卒生から21年卒生（現2年生）の10月～12月の内定取得率の推移を比較してみた（図‐⑤）。コロナ禍により説明会の中止や、採用の抑制が相次いだことから、21年卒生の10月末時点の内定率は53％で20年卒生と比較して内定率は△16ポイント、11月末時点の内定率は59％で前年比△16ポイント、12月末時点の内定率は66％前年比△17ポイントと低い水準になっている。対面活動の制約で情報集めに苦労し、志望業種変更などをした学生も見受けられた。



(図 - ⑤)

以上がキャリア支援室からの報告となる。

（キャリア支援室　赤羽美帆）

３　コロナ禍での就職活動

この章では、言語コミュニケーション学科２年生を対象としてコロナ禍の就職活動についてアンケートを取った事項を示して、今年度の就職活動の現状を考察してみたい。アンケートは、言語コミュニケーション学科２年生（回答数５８人）を対象として、令和２年９月に実施したものである。

今回の調査では、コロナ禍の中、前例のない就職活動となっている短大生の就活の実態を把握し、どのような点で活動に支障が生じたか、また、精神的にはどのような不安や気づきがあったかなどを分析して、来年度以降のキャリア教育に反映させていくことが目的である。例えば、新型コロナウィルス感染拡大に伴う、緊急事態宣言後、学生の企業選びとして重要な場であった合同企業説明会が全国的に中止・延期となり、企業と学生との接点がオンラインを中心とする非対面型に移行していった。

今回はまず、こうしたリモート型のオンライン説明会や面接試験、ディスカッションが多くの企業で取り入れられたことをふまえ、アンケート結果からその問題点を分析し、今後のキャリア教育・支援にどう生かしていくのかを考え

てみたいと思う。そのうえで、来年度就職活動に臨む１年生に対してどのような姿勢で臨み、収束が見えないコロナ禍の中、今、何をすべきかを就活経験者の立場で語ってもらい、実質面・精神面それぞれの対処法を知ることで、来年度の就職活動に活かしてもらうことが目的である。

項目①【　コロナ禍の就職活動について　】

Ｑ１コロナ禍の中、就職活動で困ったこと・不安に思ったこと

Ａ　合同企業説明会がなくなり・企業を知る手段が減った・自分に合う企業を知る機会が減った・オンライン説明会への不安など　（２４）

Ｂ　採用自体が少ないまたは減った・希望企業が求人をしていない、減る恐れ（１０）

・内定取り消しのニュース・希望職種（観光業）など将来への不安（3）

Ｃ　コロナで移動制限があり、企業訪問ができなかった（4）

・県外・関東地方を希望していたが移動制限があり安易に行けない（4）

Ｄ　コロナで就職活動を始めるタイミングが分からず出遅れた（5）

・エントリー企業からの連絡が来ない（2）・なかなか内定が出ない（2）

Ｅ　意欲がわかない、やりたいことが見つからない（4）

その他

・早期に決まったので特になし（1）

・夏休み中、相談に行くところがなかった（1）

Ｑ２　具体的にどのような問題や支障があったか

Ａ　企業を知る場が少ないので職種を絞れない、企業の情報が得にくい（１２）
合同企業説明会がないので企業研究・分析が大変だった（6）
会社見学ができない、リモート参加では社内・職場の雰囲気が伝わりにくい（3）

Ｂ　就職活動が進めにくい、面接までなかなかたどりつけない（3）

C　移動手段が減少した、帰省しての就活が制限された（2）
　企業訪問を家族に反対された（1）

D　４月に面接予定だったが、希望職種が採用中止でやる気がなくなった、精神的に嫌になった（3）

その他

・Web の使い方に戸惑った（1）

・内定が遅れて焦りが生じた（1）

Q３　気づいたこと・ためになったこと

A　早めに動けばよかった、早く決めたほうがよかった（3）

・複数の企業を受験できなかった（1）

B　見えなくても動いている人は動いている（3）

・開始時期が遅れても自分から動けば成果が得られる（1）

・自分のアンテナを広くしておくことが大切（2）

・就活においてはコロナを必要以上に恐れることはない（1）

C　説明会がないぶん、ＨＰを積極的に見たり、電話して確認したりでき、自分で積極的に企業を調べる力が付いた（6）

・連絡がない間は自己分析、企業分析、筆記や面接、文面を工夫する準備ができた（3）

D　オンラインが中心となりそこに意識をした。リモートは気軽でリラックスでき、遠くの企業も積極的に応募できた（3）

E　オンライン説明会・面接でも表情が大切、難しい（3）

その他

・キャリア支援室の配布物がとても役立った（1）

・アプリケーションをフルに活用できた（1）

項目①【考察】

この項目では、コロナ禍で学生の就職活動全体が制限され、就職先の企業選定の機会が大幅に減少した傾向がうかがえる。特に、企業側との最大の接点である合同企業説明会の中止・延期によって、幅広い業種を知り、地元企業の特性を知る機会がなくなったことが大きな点である。本学科の多くの学生が地元企業への就職を希望しているため、説明会を通して企業の特性を知り、さらに会社見学などで職場環境を直接確認できない状況も加えて、希望職種の選択の幅を広げていく機会を失ったことは大きなマイナス面であった。

また、こうしたコロナ禍での就職活動の遅れによって、学生の精神面にもさまざまな影響を与えたことがわかる。希望職種の採用縮小にともなう将来的な不安やエントリーした企業からの連絡が滞る回答からもわかるように、例年以上に不安感や焦りが生じやすい状況が続くことで、就職活動そのものへの意欲が減退する学生が多数いたことが確認できる。

その一方で、Ｑ３-Ｃにあるように、合同説明会がないことで逆に、自分で積極的に企業の情報収集をして企業を調べる力が付き、また、大学休校期間に自己分析や企業分析、筆記や面接の準備ができたと回答する学生もおり、休止期間を活用して充実した準備期間にあてたケースもあった様子がわかる。（ちなみに短大の休校期間中、日本語表現の課題として、「コロナの現状について考えること」「社会人としての心構え」という論題でそれぞれ８００字の課題を提出させた。）

もう一つ、遠方の実家や都市部での就職を希望する学生にとっては、移動の制限がある状況が続き、就職活動そのものが停滞せざるを得なかったケースもあり、情報収集の方法も含めて今後の課題と言えよう。

項目②【　オンライン面接・試験・説明会について　】

Ｑ　オンライン面接でのメリット・難しさ

〈利点〉

A　交通費がかからない、移動がない、遠方でも受けやすい（7）

・家で行うため緊張しないで済む（2）

・履歴書・カンペを見ながらできる（2）

〈欠点〉

B　相手の顔（表情）が見えず（見えにくく）話しにくい、アピールが難しい（9）

・電波の通信状況が悪い、フリーズすることもある（3）

・イヤホンだと自分や相手の声が聞き取りにくい（3）

・相手にどう映っているかわからず対面より緊張する（1）

・適度な緊張感が得られない（1）

・グループディスカッションでは会話のタイミングがつかみにくい（1）

項目②【考察】

ここでは、コロナ禍で主流となった、オンライン面接・説明会での問題点・課題を聞いてみた。回答にあるように、最大の利点としては、移動にかかるコストや時間がなくなり、遠方の複数企業との接点が取りやすくなったことがあげられ、今後、就職活動の選択肢を広げる機会となることは言えそうだ。一方で、ハード面の問題として、オンライン環境が整っていないとさまざまな支障が生じることや、面接での重要ポイントとなる表情を通してのコミュニケーションがとりにくい欠点が挙げられている。短大のキャリア支援でも、今後、オンラインに特化した面接の対策方法の指導が必要になってくるだろう。

項目③【　短大のキャリア支援・キャリア教育のあり方について　】

Q１　ためになったことは何か（複数回答）

A　自己分析　（２７）　　B　作文・履歴書・面接指導　（３４）

C　ガイダンス・先生との相談・アドバイス（２６）

D　その他　インターンシップのサポート（1）

Ｑ２　ガイダンスで得られたことは何か

Ａ　面接（オンライン含む）の臨み方、自己分析・履歴書の書き方・ポイントが理解できた（１３）

Ｂ　就活や社会人としてのマナー・心構え（１２）

Ｃ　就活全体の流れがつかめた（9）

Ｄ　危機感、現実と理想のギャップを感じた（3）

その他

・不安感が少なくなった（2）　・先生方のサポートが手厚かった（1）

・ガイダンスにあまり参加していないのでわからない（1）

Ｑ３　今後の要望など

Ａ　卒業生の就活の例を知りたい、個別に先輩の体験談をもっと聞きたい（4）

・企業選択の段階から親身に相談に乗ってほしい（2）

就活のビデオ・面接練習の機会を増やしてほしい（2）

・始めるタイミングなどのアドバイスが欲しい、自分でも聞くべきだった（1）

・時間内に終わらせてほしい（1）　・同じ内容が多い（1）

・今まで通りでよい（1）

項目③【考察】

この項目では本学科でのキャリア支援の取り組みについての学生側からの評価・要望を聞いてみた。言語コミュニケーション学科では、キャリア支援室のガイダンスと連動して、１、２年次の必修科目である日本語表現において、自己分析の書き方、論作文・履歴書・エントリーシートの書き方と添削指導をカリキュラムに取り入れている。１年次から、日本語表現では正しい日本語を使い、論理的な文章表現を身につけるための授業内容となっており、自分の言葉

で自分の意見や立場を文章化できる能力を育成することを目標としている。学生にとっても、就職活動には文章能力と自己表現力がいかに必要なのかを実感できたのではないかと思う。ただし、キャリア支援室主催の就職ガイダンスは、あくまで学生に対して就職活動の道筋をつけ、どう動いていけばよいかを提示する場であるから、その機会を生かすも殺すもそれ以降の学生自身の取り組みに関わってくる。自己分析や履歴書、面接指導についても、要点を理解して満足するだけではなく、その活用方法こそが重要であることは言うまでもない。なお、自己分析の目的や活用方法については別稿を用意してまとめていきたいと考えている。

項目④　【　コロナ禍での社会人生活について　】

Q　社会に出た時、どのような思い・心構えで臨みたいか

A　会社や社会貢献、地域貢献できるよう頑張る（8）

・向上心を持って成長していきたい、スキルアップしたい（5）

B　コロナに臆することなく自覚や責任感をもって働く（8）

・適切な予防をしながら、ウイルスと共存するという気持ちで臨みたい（2）

C　少ない接触でも社員の方々やお客様に信頼してもらえるようなコミュニケーションを心がけたい（5）

・普段の生活でも自分だけでなく周囲の人のためにも、しっかりした生活を意識したい（5）

・コロナ禍でも柔軟に行動・対応できるようにしたい（6）

その他

・社会人として礼儀正しく、正確な敬語を使う（2）

・清潔感を持ち、健康で頑張りたい（2）

項目④【考察】

ここではコロナ禍（いわゆるアフターコロナを含む）の社会状況のなかで、

社会人としてどのような姿勢で臨みたいのかを聞いてみた。今回のコロナウィルスの蔓延状況においては、好むと好まざるとに関わらず学生自身も社会の一員であるという意識を強く持たされたのではなかろうか。それは、社会や企業、会社といった組織において、他者との関係の中で自分がどのような役割を果たしていかなければならないかを考えさせられる出来事だったとも言えよう。その意味で、Ａ・Ｂのような、「社会貢献」「自覚や責任感」という言葉が、より真実味を持った言葉として学生自身にも実感できたのではないか。それは、限られた接触機会の中で、より一層、対面でのコミュニケーションの重要性を意識して働きたいというコメントからも窺い知ることができる。

また、就職面接試験や論作文試験においても、「コロナ禍であなたはどのように職場で働いていくのか」という、実践的なテーマでの課題が課せられた企業もあり、社会状況に適応した柔軟な発想力や行動が求められているケースもあった。学生にとっては、今後さらに、普段から社会的視野に立って学生生活や就職活動をしていくことが必要となるだろうし、日本語表現の論作文指導でもより社会的見地をふまえた発想での論作文指導の徹底が必要だと感じた。

項目⑤　【　後輩へのアドバイス　】

Ｑ１　今からどのような準備をすべきか

Ａ　企業分析、業界研究をし、職種を考えておく（１５）

・自己分析をしっかりとやり、履歴書面接に活かす（9）

・筆記試験、文章力、語彙力の準備をする（4）

・自己ＰＲや履歴書のデータを書き溜めておく（1）

Ｂ　早めに行動して自分のやりたいことを見つける（１１）

・インターンシップへの参加→意識の高い仲間から刺激を受けられる（7）

・合同企業説明会に積極的に参加する（5）・情報収集、会社見学（2）

その他

・人前でのプレゼンテーションをする（1）　・パソコンの準備が必要（1）

・アルバイトやサークル、学生会などの経験をしておく（1）

・大人の人生談話を聞く（得るものが多い）（1）

・メモの習慣、日記をつける（2）　・資格を取っておく（1）

・できることはすべてやる（1）

・オンライン・電話でも企業の方とコミュニケーションをとる（1）

・自分自身を見つめ、自分の未来の姿を想像する（1）

Q２　どのような心構えで就職活動に臨むべきか

A　就職への積極的な行動力、失敗を恐れない（9）

・絶対就職するぞという意思、折れない心（7）

・くよくよせず時にはポジティブに考える（7）

B　根気強く焦らず臨む、長期戦の覚悟が必要（5）

・緊張感を持って真剣に臨む、気楽に構えない（5）

C　就活に力を入れすぎずリラックスして自分のできることから取り組む（4）

・困ったら先生や友人、キャリア相談室に相談する（3）

・説明会だけに頼らずマイナビ（それ以外も）を有効活用する（2）

その他

・将来を考えて合う企業を探す（1）　・場所は選んでも、仕事は選ばない（1）

・落ちることも考えていろいろの企業を受ける（1）

・自分の長所・セールスポイントを普段から探しておく（1）

項目⑤【考察】

最後に来年度以降の後輩に向けて、コロナ禍の就職活動の経験をどのように活かしてほしいのかを聞いた。項目③でもあったように、自己分析や企業分析、筆記試験といった就活学生にとって、基本的かつ必須の準備項目が上位を占め

た。もちろん、これらをやみくもに取り組めばいいというわけではなく、自己分析→企業・業界分析→インターンシップ参加→履歴書作成→合同企業説明会→エントリーシート作成という適切な段階を経ていかければ、有効な準備とはならない。

自分自身を深く探求し適性を見極め、希望に合った企業を研究して履歴書を作成するという流れは、本学のキャリア支援でも段階的に指導されており、日本語表現の授業でもそれに応じた文書作成指導がなされている。つまり、合同企業説明会までの正しい準備が大切であり、それまでの間、学生生活で得られる様々な経験を積み、それを自己ＰＲに活かす努力が求められるのである。

そして、コロナ禍の就職活動が続くとみられる現状においては、来年度新卒の学生には、根気強く、長期戦の覚悟で就活に臨んでほしいという精神面の強さも必要であるという先輩のアドバイスを活かして今後の学生生活を送ってほしい。

４　履歴書・論作文の添削指導の実践の報告

本年度は、例年の就職指導とは大きく状況が変化した。短期大学でも全国的な学校休業要請により、キャリア支援・エントリー文章作成指導も従来型のやり方では対処が難しい状況となった。特に、本学科のキャリア支援カリキュラムにおいて、最も重要となる論作文指導や面接指導、履歴書・エントリーシートの添削が学校内で十分に実施できない時期が続いた。

そこで、この間、キャリア支援室と連携して日本語表現担当教員を中心に、メールやラインを中心とした非対面型での履歴書・論作文・エントリーシートの添削指導を積極的に実施した。本章ではこの添削指導の実践例を提示しながら、履歴書論作文指導の要点を考察してみたい。

添削例１　【金融業履歴書】

【志望動機】①

御庫のビジネスフェアや創業カレッジなどに参与し、北信地域の発展に貢献していきたいと考えたためです。私は生まれ育った地元が大好きで、地元の方々に恩返しができるような仕事がしたいと考えています。その中で御庫は、人々の生活に欠かせないお金に関する商品やサービスを北信地域の企業や人々のために提供しており、A地域に密着した企業理念に共感しました。B私も御庫の一員となり地域社会の発展に貢献、3年後には総合職に転身し、より一層地域社会を盛り上げていきたいです。

〈指導コメント〉

※前半の動機の部分はこれでよい。

後半の傍線Aの部分で、企業の特徴が分かる企業理念やモットーなど、より具体的におりまぜてまとめたい。

※地域社会・貢献というワードが重複している。傍線Bの部分で、より具体的に地域の何に貢献したいかを加えて改定したい。

企業分析をした結果の、具体的内容やエピソードがあるとベスト。

【自覚している性格】①

私は周囲を支えながらまとめる、「サーバントリーダー」的な性格をしています。例えば、授業のグループワークの際、Aどちらかというと仕切るのではなく発言しながらも他の学生の意見を聞き、最終的に内容をまとめることが多かったです。特に「AをBするにはどのようにしたらよいか」という発案型の議題では、他の学生の伝えたい事をいち早く理解し、言語化して周囲を納得させることが得意です。仕事においても一人で指示を出し、A集団を引っ張っていくリーダーではありませんが、周りを支えてまとめられるリーダーとして地域に貢献していこうと考えています。

〈指導コメント〉

※傍線Ａ「〇〇ではないですが～」という表現は、まわりくどい前置き表現なので削ります。

※「サーバントリーダー」というキャッチフレーズはよいが、エピソードとしては、より具体的な場や状況でそれをＰＲすべき。例えば、アルバイトやボランティアなどの例を挙げるのも方法。そこで、別のエピソードをＰＲすることもできる。

→学生改訂版（決定稿）

【志望動機】②　決定稿

御庫のビジネスフェアや創業カレッジなどに参与し、北信地域の発展に貢献していきたいと考えたためです。私は生まれ育った地元が大好きで、地元の方々に恩返しができるような仕事がしたいと考えています。その中で御庫は、人々の生活に欠かせないお金に関する商品やサービスを北信地域の企業や人々のために提供しており、豊かな地域社会づくりに貢献するという経営理念が自身の目標としているものと重なりました。最近では、新型コロナウイルスの影響で困っている経営者のためにゴールデンウイーク中も融資に関する休日窓口を設けたということを知り、より一層入庫したいという気持ちが高まりました。私も御庫の一員となりまずはテラーとして地域の方々との距離を縮め、３年後には総合職として北信地域の事業拡大などのお手伝いをしていきたいです。

【自覚している性格】②　決定稿

私は周囲を支えながらまとめる、「サーバントリーダー」的な性格をしています。例えば、授業のグループワークの際、発言しながら他の学生の意見も聞き、最終的に内容をまとめることが多かったです。発案型の議題では他の学生の伝えたい事をいち早く理解し、言語化して周囲を納得させることが得意です。最近ではアルバイト先のドラッグストアで後輩の販売員がお客様の要望に応え

られず困っていることにいち早く気が付き、二人でお客様に売り場へのご案内をしました。その後後輩販売員と商品の場所を再度確認し、わからないことがあった場合の対応も店長と相談の上で後輩に伝えました。仕事の際も周りを支えながらまとめていくリーダーとして気づきを大切に、同じ志の先輩方や同僚と協力して地域の発展に貢献していきたいです。

〈指導のポイント〉

傍線部が学生の改定部分である。いずれの項目ともエピソードがより具体的になり、入社してからの目標が明確となってアピールできている。このように、ＰＲポイントとエピソードの関連性、そして今後の目標にどう活かせるかという、一貫した主旨でまとめられていることが重要である。そのためには普段から、６００～８００字程度の論作文で演習の中で、基本的な作文構成方法を身につけておいたうえで、内容の核心（トピックセンテンス）を要約してまとめる訓練が必要である。

３００字程度の履歴書・エントリーシートの項目を適切にまとめるには、限られた内容で、効果的なフレーズを使いながら、なおかつ具体的に読み手を引き付ける内容にしなければならない。この点をふまえて本学科の日本語表現の授業では､レベルに応じて２００～８００字程度の論作文の課題演習を毎週（週２回の演習授業）行っている。

なお、具体的な論作文の方法については、「文章表現論―言語コミュニケーションとしての方法と実践―」（『信州豊南短期大学紀要』２９　平成２４年３月）において詳述している。

添削例２　【医療事務系履歴書】

【志望動機】①

私は短期大学での授業で、資格取得のために医療事務について学んできました。レセプト点検や診療報酬請求等の事務業務以外にも、受付業務や会計等、

患者さんと関わっていく仕事もあり、病院を幅広く支えている事を知り、私もこの医療事務に携わっていきたいと考えるようになりました。貴院では、医事課以外にも、相談室や総務課等地域の皆さんや病院で働いている方のよりよい環境づくりの為の部署もあり、事務業務以外にも、地域や人に貢献できる力、コミュニケーション能力、医療知識を身につける事ができます。このことから、自分の能力や知識をさらに高めていけると考え、志望いたしました。

【学業以外でクラブ活動、文化・スポーツ、社会活動などの体験から得られたもの】①

私はボランティア活動から、様々な年代の方とのコミュニケーションや地域貢献の楽しさを知ることが出来ました。辰野町で開催されるほたる祭りでの踊りの参加や交通安全週間でのティッシュ配り等、地域の行事に参加させていただく機会が数多くあり、短期大学生活の良い思い出になりました。この活動を通して、地域の皆さんの温かさや辰野町の魅力を感じることが出来るとても良い経験になりました。

【自分についての紹介（自己 PR など）】①

私には、視野を広く持って周りの仲間に気を配れる力があります。大人数で何かの活動を行う際には、頼まれた仕事はすぐ行なったり困っていたりする人のサポートに積極的に入ることが出来ます。反対に弱みは心配症で、一人で進めていく作業になると、これであっているのか不安になり、何度も確認を行なったり時間をかけすぎたりしてしまう事です。この自分の強みを生かし、弱みを克服できるように共に働く仲間と協力し合いながら自分の強みを増やしていきたいと考えています。

→学生改訂版（決定稿）

【志望動機】②

私は短期大学で、資格取得のために医療事務を学んできました。レセプト点検や診療報酬請求等の事務業務以外にも、受付業務や会計等で多くの患者の方々と関わる仕事でもあり、私も病院の一員として医療事務に携わりたいと考えるようになりました。貴院では、医事課以外にも、相談室や総務課等地域の方々など、病院で働いている方のよりよい環境づくりの為の部署もあることから、コミュニケーション能力を活かしながら、地域の人々に貢献していきたいと考えております。入社後は経験を積みながら、来院される方々のためになるような事務員を目指して参りたいと存じます。

→後半、このように変えたので、微調整して欲しい。

【学業以外でクラブ活動、文化・スポーツ、社会活動などの体験から得られたもの】②

ボランティア活動から、様々な年代の方とのコミュニケーションや地域貢献の楽しさを知ることが出来ました。辰野町で開催されるほたる祭りでの踊りの参加や交通安全週間でのティッシュ配り等、地域の行事に参加させていただき、地域の方々の温かさや辰野町の魅力を感じることが出来るとても良い経験になりました。

→単に経験をしたではなく、具体的にどのような社会勉強になり、何を学び得たのかを自分の言葉で示すこと。

【自分についての紹介（自己 PR など）】②

私には、視野を広く持って周りの仲間に気を配れる力があります。大人数で何かの活動を行う際には、頼まれた仕事はすぐ行なって困っている人のサポートに積極的に入ることが出来ます。反対に弱みは心配症で、一人で進めていく作業になると、これであっているのか不安になり、何度も確認を行なったり時

間をかけすぎてしまう事です。この自分の強みを生かし、弱みを克服できるように共に働く仲間と協力し合いながら自分の強みを増やしていきたいと考えています。

→弱みはこの場合不要。ＰＲは強みを述べること。

自己分析ノートをもう一度見直して、キャッチフレーズや具体的なエピソードを交えてＰＲしたい。

〈指導のポイント〉

この学生は医療事務職を志望しており、志望動機には短大で学んできた医療事務の具体的内容がまとめられているのがよい点である。後半で、自分の強みを職場でどう活かせるかという点があれば完璧である。「学業以外での体験から得られたもの」の項目は、ボランティア活動の参加の報告だけでなく、そこから何を得られたか、また学び得たかという精神面での成長が具体的ではなく、その点はさらなる加筆修正が必要となる。

そして、自己ＰＲは添削時のコメントにもあるように、具体的なエピソードの中で自分の強みがどう発揮されたかをＰＲする必要があり、その点は修正が必要である。特筆すべき強みがなければ、キャッチフレーズなどで自分をＰＲして、自分の言葉で自分を積極的に売り込むような表現面の工夫も必要である。例えば、「気配り」というフレーズはありふれているため、より具体的に読み手にイメージしやすいキャッチフレーズでたとえて表現するといった工夫である。

そのため、本学科の自己分析ノートでは、色や動物、花、モットーなどで自分を表現する項目を設けており、それを自己ＰＲ文に活用していくことを指導している。以前、自分を「すっぽん」にたとえて、最後まで粘り強く食らいつく精神で臨みたい、と答えた女子学生がいた。その学生は面接のときもそのアピール内容で内定を勝ち取った。しかしすべての学生がこのようにはいかないことも事実である。社会での経験が浅い学生はＰＲできる材料が少ない場合が多く、その対処や方法については今後の課題でもある。

添削例３　【医療事務系エントリーシート】

【この業界を選んだ理由（100 ～ 150 文字）】①

人の健康を支える仕事がしたいと調剤薬局業界を志望しました。幼い頃お世話になった薬剤師の方から、健康に対する疑問に対して親身なって答えていただきました。そのおかげで健康に関する悩みが解消でき、私自身も、患者様の疑問や悩みに寄り添いたいと志望しました。（147 文字）

→ここの項目は基本的にはよいが、業界全体の問題などを入れてまとめてもよい。基本的には問題ない。

【企業を選ぶ際に重視しているポイント（100 ～ 150 文字）】①

私が学んできた医療事務の学びを、十分に発揮したいからです。目標は、患者様が気軽に声をかけられる存在になることですが、先輩方の声を参考にしながら、患者様のためになるよう、様々な分野や資格にも挑戦して、患者に寄り添う事務員を目指したいと考えております。（147 文字）

→「患者に寄り添う」という内容が抽象的なので、もう少し具体的にまとめたい。また、「様々な分野や資格」がどのようなものかを提示すれば、将来的な展望が具体的となり、積極性をアピールできる。

【将来のなりたい自分とそのためにチャレンジしたいこと（200 ～ 300 文字）】①

将来、患者様から頼られるような人になりたいです。大学生になってからアルバイトを始めたのですが、専門的な知識が無いためにお客様の質問に答えらず、お客様から「社員の人呼んでもらえる？」と言われることが多くありました。そのため、自分が頼られるようになりたい、きちんと応えたいと思いました。業務内容や患者様との関わり方について分からないことは先輩にどんどん質問し、正確で丁寧な仕事ができるように努めたいです。そして、正確で丁寧な仕事を基に、患者様にこちらからコミュニケーションを図ることに挑戦したいです。自ら働きかけることで、自分から話しにくい患者様にも頼っていただくき

っかけを作れるのではないかと思います。(300 文字)
→再考。患者様から頼られるとは、何を、どのようになのかを明確にしたい。例えば、信頼を得るための工夫や取り組みを取り入れ、そこでの学生時代の工夫や挑戦の具体例を入れるとよい。

→学生改訂版（決定稿）

【この業界を選んだ理由（100 ～ 150 文字)】②

人の健康を支える仕事がしたいと調剤薬局業界を志望しました。幼い頃お世話になった薬剤師の方から、健康に対する疑問に親身になって答えていただきました。そのおかげで健康に関する悩みが解消でき、私自身も、地域薬局が後継者難で減少傾向のなか、かかりつけ薬局として患者様の疑問や悩みに寄り添いたいと志望しました。(150 文字)
→後半、「地域薬局の後継者問題」という業界問題を取り入れたうえでよくまとめられている。

【企業を選ぶ際に重視しているポイント（100 ～ 150 文字)】②

患者様に寄り添う働きができる点です。目標は、患者様が気軽に声をかけられる存在になることです。かかりつけ薬局として患者様の声を聞けるように窓口を設け、時には薬剤師さんと患者様の架け橋になりたいと思っています。また、調剤事務に関する資格に挑戦し、一層患者様に寄り添う事務員を目指したいと思っています。(149 文字)
→企業分析がしっかりできた記述内容に改善されている。資格取得も具体的資格が書かれている。

【将来のなりたい自分とそのためにチャレンジしたいこと（200 ～ 300 文字)】②

将来、「この薬について聞きたいのですが、おわかりになりますか。」と気軽に声をかけてもらえるような、頼られる事務員になりたいです。例えば、「体

調どうですか。」と細やかな患者様への気遣いも必要だと考えます。現在、ホームセンターでアルバイトをしていますが、大きな買い物をされたお客様には「運びやすいようにカートをお持ちしますか」と声をかけています。この一言がきっかけで、次にご来店されたときに声をかけていただくことがあります。この経験から、頼られる人になるには、進んで自分から歩み寄ることが必要だと思いました。「お変わりないですか」のような気遣いをすることで、患者様から声をかけていただく、頼っていただける事務員になりたいです。(298 文字)
→アルバイト体験と事務員との共通項が文面から伝わる。「コミュニケーション」の中身も具体的に述べられており、信頼される事務員を目指すという人物像が読み取れる。

〈指導のポイント〉

エントリーシートの回答は、短い項目字数の中で、いかに自分の考え方や人生観・職業観をＰＲできるかがポイントとなる。抽象的表現（積極性・協調性）などの言葉を安易に使うのではなく、短いエピソードの中で自分の個性をＰＲしたり、キャッチフレーズや表現方法を工夫したりすることが相手を引き付ける要素となる。この学生の場合も、【企業を選ぶ際に重視しているポイント②】のＡで改定したように、「薬剤師さんと患者様の架け橋」というフレーズを使って、企業と自分との接点を具体的に表現できている点が評価できる。

また、【業界を選んだ理由】項目でも、身上話や一般論に終始せず、業界全体を取り巻く現代的問題を取り入れながら、社会的問題をどれだけ自分自身の問題としてとらえられているかを述べることも重要なＰＲポイントである。その意味で、〈地域薬局の後継者問題〉という話題を取り込んでいる点は評価できる。

【将来のなりたい自分とそのためにチャレンジしたいこと】については、「信頼される事務員」という目標が掲げられており、それに関連する学生時代のエピソードもまとめられていることはよい点である。ただし、これだけだとアピールとしては少々物足りない。さらにもう一歩アピールするためには、チャレ

ンジしたいことや将来像に、企業との具体的な接点やキャリアアップのための意欲などが具体的に述べられていることが望ましい。それがあることで、しっかりとした業界・企業研究をふまえての目標設定やそれに向けての意欲が明確に伝わるはずである。

添削例４　【福祉系小論文】

論題「障がいということについて」

私が考える障がいとは、全ての人が生活しやすい環境を整えていない社会が作り上げていると考えます。

例えば、私の最寄りの駅にはスロープやエレベーターがありません。このような駅を車いすの人などは気軽に利用することは難しいですが、スロープやエレベーターがあれば車いすの人でも一人で駅を利用することができます。このように、障がいがあっても設備を整えたり手を貸したり少しの支援があれば普通に生活することができるのです。それではなぜ、全ての人が生活しやすいように環境が整っていないのでしょうか？

それは、多くの人が障がいに関して知識や理解不足だからだと考えます。障がいと聞くと、多くの人は身体が不自由な人や目が見えない人という身体障がいを思い浮かべます。最近は、知的障がいや発達障がいという言葉も聞くようになりましたが、特別支援学級にいる子くらいしか知らない人が多いです。これらの無知や無関心が障がいのある人の生活を生きずらくしているのです。
しかし、これは、健常者にも言えることです。例えば、私は視力が低いため、コンタクトを使用していますが、コンタクトを取ると外を堂々と歩けません。そう考えると、眼鏡を使用している人も同様で私達も障がいがあると同じことではないでしょうか。つまり、いつ誰が障がいがある人になってもおかしくないのです。

そうならない為に、障がいを身近な問題として捉え、自分がもし突然に事故にあって歩けなくなったら、話せなくなったらと障がいがある人の立場になっ

て考えることが大切です。

現在コロナ禍で、人との接触を避けるため、従来のようなボランティアなどの直接的な支援が難しくなっています。今後、このような状況に応じて直接的な支援ではなく、障がいのあるなしに関わらず、全ての人が生活しやすいような設備や環境を整える間接的な支援の充実が必要になると考えます。

〈コメント〉

※→1　具体的なエピソードを交えて自分の考えや姿勢を伝えられるか。体験から学び得た内容もあるとよい。

2　コロナ禍の中で、障害者の問題とどう向き合えるか、という点はやはり必要となる。

最近では支援する際にも感染防止の難しさがニュースでも伝えられている。そういう点を文章の最後に課題点としてまとめると読み手の印象は変わってくる。

→学生改訂版

現在の日本社会では、必ずしも全ての人に生活しやすい環境が整っているとは言えません。例えば、最寄り駅にはスロープやエレベーターが完備されておらず、車いすの人や視覚聴覚障害の方にとって気軽に利用することは難しい状況です。まずは、障害者に対する設備や環境といったハード面での支援が必要だと考えます。

こうした要因として、すべての人が障害に対する知識や理解がといった情報が不足していることが挙げられます。障がいと聞くと、多くの人は身体が不自由な人や目が見えない人という身体障がいを思い浮かべます。最近は、知的障がいや発達障がいという言葉も聞くようになりましたが、特別支援学級にいる子くらいしか知らない人が多いです。これらの無知や無関心が障がいのある人の生活を生きずらくしているのです。

〈コメント〉

※→波線部はあまりに常識的すぎる事柄なので、むしろ自分自身が、障がい

者に対して不足している情報をどのように伝えるかという方法やその効果を述るといい。たとえば、先日、東京の地下鉄で視覚障害の方が転落する事故があり、このような事故はなかなか減らない。こうした事例では、どのようなことが情報不足で、何が必要となるかを問題提起できるといい。

しかし、これは、健常者にも言えることです。例えば、私は視力が低いため、コンタクトを使用していますが、コンタクトを取ると外を堂々と歩けません。そう考えると、眼鏡を使用している人も同様で私達も障がいがあると同じことではないでしょうか。つまり、いつ誰が障がいがある人になってもおかしくないのです。

〈コメント〉

※→この例は内容的に適切とは言えない。「いつ誰が障がいがある人になってもおかしくない」の例としては、不慮の事故や家族や友人にいつ障がいを持つ人が生まれるとも限らない、という感じの内容が一般的であろう。

そうならない為に、障がいを身近な問題として捉え、自分がもし突然に事故にあって歩けなくなったら、話せなくなったらと障がいがある人の立場になって考えることが大切です。

〈コメント〉

※→この部分はたとえば、「障がいがある人の立場になって考える、そのために何ができるのか」という、具体的な提案が必要となる。その具体策をあげないと説得力に欠ける内容となる。

現在コロナ禍で、人との接触を避けるため、従来のようなボランティアなどの直接的な支援が難しくなっています。今後、このような状況に応じて直接的な支援ではなく、障がいのあるなしに関わらず、Ｂ全ての人が生活しやすいような設備や環境を整える間接的な支援の充実が必要になると考えます。

〈コメント〉

※→コロナ禍の支援の困難さが話題にあげられている点はよい。ただし、波

線Ｂの部分では、「間接的支援」の内容が抽象的であり、業界分析をふまえた具体的な支援方法を提案することが必要である。

〈指導のポイント〉

業界に関するテーマの論作文では、志望業界に関する基本的な知識と、業界が抱える課題や社会的状況をふまえた展望といった視点からの発想が必要となろう。その中から論題に適した論点を絞り、どのような人材を求めているかといったことにも配慮しつつ、自分なりの視点で具体的な提案をすることが重要なポイントとなる。

例えば、公務員試験のグループディスカッションでは、「地域や自治体の活性化のためには」といったテーマが頻出するが、こうした提案型小論文では、地域に関する基本的な情報を収集してそれをもとに、身近な話題に引き付けてから活性化のための意見や提案をしていく必要がある。時事的問題に対する関心はもとより、その地域の特性に応じた具体的で実現性の高い提案が求められてこよう。そのため、日本語表現の課題でも、「地域活性化」の課題型小論文をとりあげ、その方法を演習している。なお、こうした就職論作文の書き方については、拙稿「キャリア教育における文章表現―指導と実践の報告―」（『信州豊南短期大学大学紀要』３０　平成２５年３月）において紹介している。

ところで、コロナ禍の就職活動においては、業界や企業を含む社会全体がその影響下に置かれていることは言うまでもない。学生にとっても、就職先の企業や自治体がどのような影響を受けていて、新型コロナウィルス感染の感染拡大によってどのような問題を抱えることになったかを考える必要性に迫られたことだろう。

例えば、今回の作文の福祉業界を例にとっても、これまでとは比較にならない課題や支障が生じてきている。この点は第３章のアンケート結果にも表れていることだが、コロナ禍（いわゆるアフターコロナを含む）の社会状況のなかで、社会人としてどのような姿勢で臨まねばならないかを示すことが、業界や企業

への強い志望意欲にもつながるものだと考える。来年度の就職活動でも、社会状況が変化しない限り、同じような対応が求められることになろう。アフターコロナ下での就職活動については、今後もキャリア支援室とともに取り組まなければならない大きな課題である。

５　１年生のキャリア教育の取り組み

言語コミュニケーション学科１年生では、例年１０月以降、キャリア支援教育のためのプログラムが本格的にスタートしていく（詳細なスケジュールは第２章を参照）。この日程に合わせる形で日本語表現の授業でも、自己分析の方法と書き方から企業分析の方法、履歴書・エントリーシート作成の手順を演習して、来年度の就職活動のための書類作成の準備を行っている。

短大１年生の就職活動のスケジュールとしては、夏休み中の就職関連調査（キャリア支援室中心に実施）からスタートし、１１月の進路ガイダンスで自己分析ノートを配布し、その作成方法を日本語表現で指導していく。１１月中には、若年者地域連携事業推進センター人材コンサルタントの北出信一氏のコーディネートによる、地元企業担当者による企業プレゼンテーションと交流会を実施し、それに合わせて企業分析の方法を授業内で実施した。

今年度の参加企業は、「アルプス中央信用金庫」（金融）・「WashiOn 共立継器（株）」（製造）・「社会福祉法人　サン・ビジョン」（福祉）・「合資会社　新湯温泉」（旅館観光）・「辰野町役場」（行政）の五社に参加いただいた。その後、１２月にはＯＧ・ＯＢが来校し、『卒業生から学ぶ就職活動』として４名の卒業生（勤務先：アルプス中央信用金庫・長野トヨペット・（株）オギノ・辰野町役場）のパネラーを招いて、社会人としての感想や就職活動の体験談などを語ってもらい質疑応答と個別相談を開いた。

これらのガイダンスはキャリア支援室が中心になって企画運営したものであるが、それと連動して１年生の日本語表現の授業内でも、企業分析ノートを作成したり志望動機書を作成したりするなどして、自分の適性と企業との接点を

発見・確認することを狙いとした。そこで本章では、これらのガイダンスでの企業側へのアンケート結果とＯＧ訪問の質疑応答、また企業分析をもとにした模擬志望動機書の添削例を報告・検証しながら、今後の進路指導に何が必要なのかを考えてみたい。まずは、企業担当者のプレゼンテーションと交流会（令和２年１１月１８日学内実施)、およびＯＧの就職体験談と個別相談（同２年１２月１６日学内実施）について報告していきたい。

本会は、厚生労働省長野労働局の若年者地域連携事業「ＵＩＪターン就職セミナー」として本学で開催されたものであり、【地域企業を知る企業研究ワークショップ】の形で実施された。まず、基調講話として若年者地域連携事業推進センター人材コンサルタント北出信一氏の講話があり、次いで各企業の人事担当者の方々による企業プレゼンテーション、その後、企業ごとにブースに分かれて学生と企業側の２回の意見交換が行われた。学生にとっては企業の担当者とほぼ初めて接触する機会でもあり、また、（株）新湯温泉からは、人事担当者のほかに昨年度の卒業生２名も参加してもらい、率直な意見交換を通して職種や業種などの地元企業の情報を得る良い機会となったと思われる。昨年度実施の同会で関心を持った学生の中には、いち早く採用応募をして内定にこぎつけた学生もおり、地元企業の方々にはそうした実例をふまえながら親身に対応していただいた。次に示すのは、筆者がその際に企業の方々に取ったアンケート結果である。

【企業担当者へのアンケート結果】（回答８名）

１　学生にこれだけは身につけてほしいのはどのような事柄か

◎元気な挨拶・礼儀など基本的な社会常識（４）

・メモを取る習慣（講演で取る学生が少なかった）

・両親、先生、友人など私を支えてくれる方々に感謝し、自分を大切にする

・様々な経験を積んで人生を豊かにする、チャレンジ精神

２　どのような履歴書が採用担当者の目に留まるか

◎自分の考えや気持を自分の言葉で、丁寧に書いているもの（4）

（なぐり書きや他社・他業界の内容があり、使い回しているものは、だめなものとして目にとまる）（なぐり書きのものは途中で見るのをやめる）

・ストーリーテラーで書かれていること（志望者の目線で読むことができる）

・こちらのことがよく調べられている

3　採用面接の際に、最も重視することは何か

◎上手な言葉でなくても、自分自身の考えをきちんと話しているか（3）

・笑顔、受け答えの様子、表情　・コミュニケーション能力

・志望動機、真剣さ　・前向きな姿勢

4　短大１年生の今、学生にやっておいてほしいことは何か

◎キャンパスライフを充実させ、就活を頑張ってほしい（3）

◎インターンシップや社会参画、アルバイトなどの社会との接点、多様な人との関わりをもってほしい

・いろいろなことに興味を持って、たくさん遊んでたくさん学んでほしい

・本を読む（2）・文章を書くこと　・新聞を読むこと

・自己分析をたくさんしてみてほしい（新しい発見がある）

〈考察と分析〉

以上のアンケート結果から、学生にとって就職活動に必要な事柄を次の３点に分類してみた。

①　社会人としての一般常識や挨拶などのコミュニケーション能力を身につけること。
②　積極的な姿勢（学校生活の充実・社会参画への意欲）で様々な経験を積むこと。
③　自分自身の言葉で自分の考えを適切に伝えられること。

①については、本学科でも日本語表現やコミュニケーションスキルなど実践

的なコミュニケーション能力を養成する授業のほかに、コミュニケーション検定・日本語検定・就職模擬試験などの資格試験への取り組みを通して、スキルアップを目指している。今後はこうした資格学習で得た知識技能面を面接など実践的な場面でどう活用していけるのかが課題となろう。

※コミュニケーション検定初級（2019 年　受験者８３人　合格者７２人
　2020 年　受験者４６人　合格者４３人）

※日本語検定３級（2020 年　受験者３４人　合格者２５人）

②については、令和２年１２月１６日に学内で実施された『卒業生から学ぶ就職活動』でも同じような意見が出された。当日参加した学生のアンケート結果をみてみると、インターンシップへの参加、就職活動や企業研究への意欲が高まった声が多く挙がっており、比較的距離の近い卒業生から生の声や本音が聞けたことが大きかったと感じた。また、実際の就職試験内容を伝えてもらったことで、今後何をどう学び、どのような準備をしなければならないかを実感できた声も多くあった。その結果、厚労省の若年者地域連携事業推進センターによるインターンシップへの申し込みが１９名あり、今後、同センターの人材コンサルタント北出信一氏の面談と企業選定を経て 2021 年２月以降に就業体験を実施する運びとなっている。

③については、本学科の日本語表現Ⅰ～Ⅲの演習の中でも随時指導しており、その実践報告は別稿に譲りたい。ここでは、企業研究ワークショップとして実施した【地域企業を知る企業研究ワークショップ】を体験した後に、作文課題として取り組んだ「志望動機書」の添削結果を以下に示しながらその指導例を報告したい。

作文作成に先立って日本語表現の授業の中で、あらかじめ志望動機書の書き方の概要を指導した。学生には、ワークショップで知り得た企業の情報を整理・分析し、そのうえで自分が最も関心を持った企業を１社選ばせて、６００～

８００字の範囲でまとめさせた。段落構成は３段落とし、１段目に「志望動機・きっかけをまとめる」、２段目に「自己ＰＲと職種内容を関連させて志望理由を具体的にまとめる」、３段目に「今後の抱負や意欲、挑戦してみたいことをまとめる」の段落内容の順序で構成するよう指示した。学生にとっては最初の志望動機書の作成であり、あくまで実践に向けての予行的な意味合いであったものの、今後の企業分析や書類作成のヒントが発見できたのではないかと考える。

以下に、代表的な添削例を示しその成果を見てみたい。

添削例１　【アルプス中央信用金庫（金融）】

私が貴社を志望した理由は、Ａ基本方針である地域経済の発展に貢献するため、働くものすべてが安定した生活を送れるよう働くという、優しさあふれる思いに感動し、私も地域経済の発展に少しでも貢献したいと思ったからです。窓口では、お客様が望む様々な対応を正確に早く満足してもらえるよう、考えて対応している姿にも心を動かされました。お客様一人一人に満足してもらえるよう考えられた丁寧な対応にあこがれ、興味を持ちました。

私が初めて銀行の窓口を利用したのは、自分の普通預金口座を作りに行ったときです。さまざまな書類の用紙がある中、どの紙に書けば口座を作れるのかわからず戸惑っていました。その時、窓口の方が優しく声をかけてくれ、丁寧にわかりやすく対応をしていただきました。待ち時間も少なく、効率的で正確に対応してもらったことが印象に残っています。Ｂ銀行はたくさんの人のお金を管理するため、正確さや責任感がとても大事だと思います。

Ｃ私は貴社でお客様一人一人と寄り添い、満足してもらえるよう働きたいと考えています。お客様のことを考え行動することで、満足して喜んでいただけると考えます。お客様に喜んでいただけたときに、やりがいを強く感じられるのだと思います。貴社の基本方針のように、優しさあふれる姿を目指し働きたいと思います。そして、またこの人に担当してもらいたいと思っていただけるよう、正確さを大切にして貴社の社員にふさわしいよう働きます。

添削例２　【サン・ビジョン（福祉）】

Ａ高齢者の尊厳と自己決定を尊重し、一人一人のライフスタイルを支援する貴社の理念に共感いたしました。私は幼い頃から高齢者の方々と接する機会が多かったと感じます。その際に、高齢者の方々は常に笑顔で接してくださり、沢山話をしてくれました。また、いつも優しく手を握ってくれ、自然と私も笑顔になれました。そのため、今度は私が高齢者の方々の役に立ち、笑顔にしたいと強く思いました。

私は、学生生活の中で特にコミュニケーション力を高めることに専念してきました。コミュニケーションを取るうえで、わかりやすく伝えることはもちろん重要ではありますが、Ｂ相手が話しやすい環境をつくるためには、聴くスキルが大切になると気づきました。しかし、人によって話しやすい環境が違うため、聴くことの難しさを痛感しました。そこで、日頃から自分が話す立場の時に、どんな聴き方をしてくれたら話しやすいだろうかと考えながら、コミュニケーションを取るよう心がけてきました。Ｂ適度に相づちを打ったり最後まで話を聴いたりすることが話しやすい環境をつくることができると考えます。

この経験から、Ｃ相談員として利用者様やご家族が、悩みや不安を話しやすい雰囲気づくりを目標としていきたいです。そして、コミュニケーションを通して一人一人の抱えている問題をなくしていき、私自身が利用者様とご家族との架け橋となりたいと強く思い、志望いたしました。

〈指導のポイント〉

志望動機書で最も必要な要素は言うまでもなく、企業分析をふまえた希望企業や業界に対する情報である。企業訪問や説明会など、自分自身で集めた情報をいかに的確に相手企業に伝え、その上で自分自身の強みや企業との接点や就業意欲を伝えることが肝要である。また、同じ業種でも、地域や形態によってその企業が持っている独自性は異なるため、受験する企業・自治体に合わせた

志望動機が必要となる。ここに、企業見学やインターンシップ、ＯＧ訪問といった自分自身の足で稼いだ個別の情報が加わることで、相手企業に対する熱意や意欲がより伝わることとなろう。

その意味で、添削例１と２の波線Ａの部分は、企業理念をふまえた志望のきっかけがまとめられている点でよい。これに業界全体を巡る問題点といった広い視野で適性をＰＲする内容になればさらによいが、まだ一年生でもあり今後の課題となろう。次の段落は、その企業でどのような能力が必要となるか、また自分には何ができるのかを、自分自身の体験を例に取りながら企業との接点をまとめる部分である。その意味で、波線Ｂに見られるように二人とも業界の性格に即したＰＲができている。最終段落は今後の抱負や意欲を自分の言葉でまとめる部分である。波線Ｃのように、現在の考え方や意欲そのものは述べられているものの、より具体的に読み手の印象に強く訴えるには、どのように「一人一人に寄り添い」、どのような「雰囲気づくり」ができるのかという具体的な工夫や提案が示されればより印象に残る内容となるだろう。

添削例３　【WashiOn 共立継器（株）（製造）】

貴社を志望した理由は、製品を機械ではなく、手作りで作っているところに魅力を感じたからです。私が知っている企業の製品は、大体が機械や一部を手作りというものが多く、あまり興味を感じなかったのですが、貴社はすべての製品を人の手で行っています。また、人の手と目で確認することで、不具合をなくし、安心で安全な製品を作っている姿に魅力を感じました。

例えば、Ａドアのスイッチの９５％が貴社のものと知り、とても驚きました。開発の原点とあるように、とても信頼が厚い製品を作っている貴社の力が一番の魅力であり、私も貴社で働いている皆さんと厚い信頼をおける製品を作ってきたいと思いました。会社説明の際、丁寧な説明と熱い思いを貴社の方が語ってくださり、仕事のやりがいをとても感じられる企業なのだと思いました。その時、Ａ部品に不具合がないように作業中は無口でおしゃべり禁止という仕事

の姿勢も、製品に対する熱い姿勢なのだと感じました。

貴社で働きたいＢ一番の思いは、安心で安全な製品を作り、人々の生活を支え、信頼される製品を作っていくことです。貴社が大切にしている、「手作りで不具合のない製品」を私も一緒に作らせていただきたいと思っています。皆さんと一緒に安心で安全な製品作りに励みたいと思います。

添削例４　【合資会社　新湯温泉（旅館観光）】

私が貴社を志望した理由は、自然豊かな環境とマナーなどを学べる研修が充実しているところが魅力的だと思ったからです。企業説明会に参加した時に、研修の多さに驚きました。Ａ研修は年齢や立場に関係なく行われると聞き、自分に自信を持つことや成長のバックアップがとても大きいと思いました。

貴社には３つの旅館があり、それぞれ違った特徴を持っているところも魅力の一つだと思います。それぞれの旅館でターゲットやコンセプト、料理などが違い、様々な層のお客様に来てもらいやすい工夫が見られます。さらに、Ａ旅館によって、おじぎのタイミングが違うなど、細かいところまで気遣っているところもよいと思いました。実際に働いている先輩の方の話を聴いたとき、言葉遣いや話し方が丁寧なところが印象的でした。まだ働き始めて１年足らずにもかかわらず、研修が充実しているから短期間にこれだけ成長できたのだと思いました。

私は学生の時に接客業のアルバイトをしていました。その際に、接客の難しさや楽しさを知り、人の役に立てるような仕事をしたいと考えるようになりました。また、Ｂ私は本が好きで本に携われる仕事に就きたいと思っていました。貴社には本が多く置いてある旅館があり、さらにスキルアップのできる研修もあるため、貴社への入社を志望します。入社後は様々な知識を吸収し、人の役に立てるように尽力していきたいです。

〈指導のポイント〉

この３と４の志望書は、企業研究ワークショップでの企業プレゼンと意見交換会から得た質疑応答とメモ収集の成果がうかがえる内容となっている。製造業なら自社の製品や仕事への姿勢、旅館業なら独自の研修制度や接客の応対例など、企業の具体的な取り組みが動機書の中に組み込まれていて、それが志望者の関心と関連する内容になっている点がよい。これは、アンケートで示された企業側が求める、③の「自分自身の言葉で自分の考えを適切に伝えられること」の項目が表現されているという評価につながるものである。もちろん、文章的にはまだまだ改良の余地が多いが、肝心なのは、こうした書類そのものの完成度ではなく、書類を通して実際に「この学生に会ってみたい」と思わせることである。いくら文章で上手く装っても、実際の面接で成功するとはかぎらない。そのために企業側では、エントリーシートやグループディスカッション、集団面接などで、その学生の様々な側面や適性を見極めようとするのである。

では、短大１年の今、どのような準備をすべきなのか。その準備の質がまさに問われているのである。学生個々の魅力とは、企業研究ワークショップで企業が学生に望むことに挙げられていた、〈インターンシップや社会参画、アルバイトなどの社会との接点、多様な人と関わり、様々なことに関心を持って、たくさん遊んでたくさん学んでキャンパスライフを充実させていく〉といった日々の学生生活の質の向上がまさに問われているのである。短大１年生にとって必要なのは、こうした経験やスキルを今のうちに積み、それが必要となる時に向けてしっかりとした準備を怠らないことであり、それは短大の授業やガイダンスだけでなく、学生生活のあらゆる局面でそうした力が問われているのである。

〈おわりに〉

以上、コロナ禍におけるこの一年のキャリア支援の報告をしてきたわけであるが、そもそも就職活動やその支援について、これが正解であるという解答はあるはずもなく、ここに示したキャリア支援の方法も様々な模索をしながら集

めた一つの成果に過ぎない。大きな社会変革や情勢の変化によって、私たちの生活および行動は大きな変革を迫られるものであり、短大におけるキャリア支援教育もその一部であるとすれば、時々刻々と変化する状況に応じて臨機応変に対応し、その時々に適切な方法を模索していかなければならないだろう。それが問われた１年であった。

〈付記〉本稿には学生が書いた論作文や履歴書、アンケートコメントを掲載しております。引用に際し承諾させていただいた学生には改めて感謝申し上げます。また、ガイダンス等でご協力いただいた企業や個人の方々にも厚く御礼申し上げます。